

# 小学校家庭科の学習項目に対する大学生の指導観に関する一考察

沼田 貴美子

(熊本大学 教育学部)

A Study of Teaching Philosophy of University Students Regarding Learning Items of  
Elementary School Home Economics

Kimiko Numata

## はじめに

小学校、中学校及び高等学校の家庭科の学習指導の出発点となる小学校家庭科で日常生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けさせ実践的な態度を育てる指導をする意義は大きい。小学校家庭科の教科の目標には「衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、家庭生活への関心を高めるとともに日常生活に必要な基礎的な知識と技能を身に付け、家族の一員として生活を工夫しようとする実践的な態度を育てる。」<sup>1</sup>と示されている。実習や観察、調査などを通して学習することにより、個人として生活的な自立の基礎を培うことを目指し、豊かな実践的な態度や豊かな人間性を育てることをねらいとしている。これまでに小学校家庭科の授業研究、教材の開発、教材の作成、教材の定着度、小学生の学習意欲、小学校学習指導要領の変遷などについての研究が数多く報告されている。学習したことを日常生活で実践することを重視する家庭科の教育では、子どもたちの生活体験が希薄な実態のなか、学習内容の定着度を確実にすることが重要視されている。このような現状の課題を検討するために、将来小学校で家庭科を指導する立場になる学生が、小学校家庭科の学習内容に関する知識と技能について、どの程度の到達度にあり、どのような指導観をもっているのか、その実態を調査研究することにより、これからの家庭科教育の指導の在り方について検討した。

## 研究方法

### 研究の目的及び調査方法

将来小学校の教師として家庭科を指導する立場に立つ学生は、家庭生活の指導内容についてどのような指導力及び指導観であるのかその実態を把握するとともに、教師となる学生への大学での小学校家庭科関係の教育内容を充実させるためにはどのような手立てが必要であるかを検討するために調査研究を実施した。

本調査は熊本市内の大学2年生93名を対象に、平成21年2月中旬に質問紙調査法による一斉調査を実施し全数を回収(回収率100%)した。調査票は、小学校家庭科の教科書<sup>2,3</sup>から家族の生活、

消費生活、食生活、衣生活、住生活、地域、福祉、環境などの生活全般に関連した家庭生活の学習内容、小学校家庭科の学習指導要領<sup>1</sup>や学習指導要領解説書<sup>1</sup>などの内容と要点、先に筆者等が報告した論文などを参考に、質問項目を設定し作成した。

家族の生活には「自分の生活時間を書く」「家族の生活時間を書く」「家事の種類をあげる」「家事を分担する」「自分の誕生と成長を記録する」「団らんの時間を持つ」の6項目。消費生活には、「支出を5種類以上あげる」「計画的に金銭を使用する」「自分の支出を記録する」「目的に合った商品を選ぶ」「正しい契約をする」「不要なものの購入を断る」「生活情報を収集し活用する」「環境家計簿をつける」の8項目。食生活関連で取り上げた項目は「食事作りの手順をあげる」「食品表示を見て安全な食品を選ぶ」「体に必要な栄養素の種類と働きをあげる」「家族と楽しく食事をする」「お茶をいれる」「ご飯を炊く」「みそ汁を作る」「野菜や肉類を炒める」「簡単な食事を作る」「食費を計算する」の10項目。衣生活関連で取り上げた項目は「着用目的に適した着装をする」「自分に合う既製服を選ぶ」「衣服の日常の手入れや整理をする」「素材別に洗濯用洗剤を選ぶ」「日常着を洗濯する」「家庭洗濯とクリーニング利用を区別する」「アイロンをかける」「ほころびをなおす」「ボタンをつける」「衣服をリサイクルする」の10項目。住生活関連で取り上げた項目は「自分の部屋を美化整備する」「家族が共通に使う場所の美化整備をする」「部屋の明るさを調整する」「部屋の換気と冷暖房の調整をする」の4項目。地域に関連した項目には「地域の環境を整備する」「地域の活動に参加する」「地域の住民としてのルールを守る」の3項目。福祉に関連した項目には「高齢者への手助けをする」「幼児への手助けをする」「外国人への手助けをする」「ボランティア活動をする」の4項目。環境の項目には「生活環境を考えて家庭生活を工夫する」「地球環境保護とゴミの関係を考える」「地球環境保護とエネルギーの関係を考える」の3項目とした。以上の合計48項目について質問した。各質問項目に対する回答はその項目が自分でできるかどうかを「できる、少しできる、できない」の3段階で「到達感」を、また、その項目を実践する「難易感」は「やさしい、少し難しい、難しい」の3段階でその難易度から学生自身の実態を自己評価で該当する項目を回答させた。さらに、指導方法の課題については「指導力の程度」を「できる、少しできる、できない」の3段階から、「指導の難易感」を「やさしい、少し難しい、難しい」の3段階から選択回答させた。また、家庭生活に関する知識や考え方などの意識的内容について知っているかどうかの「認知度」それを指導する場合の「指導力の程度」及び「指導の難易感」について質問した。質問項目は、「家族の大切さ」「いろいろな家族構成」「家庭生活の大切さ」「家庭の仕事」「契約の意味」「消費者の権利と責任」「税金と家庭生活との関わり」「既製服の品質表示・取り扱い絵表示の意味」「既製服のサイズ表示の意味」「被服材料の種類と特徴」「住居用洗剤の表示の意味」「生活資源の節約やリサイクル」の12項目であった。各質問項目の内容について知っているかの「認知度」を「知っている、少し知っている、知らない」の3段階から、各項目を指導する場合の学生自身の自己評価による指導力について「指導力の程度」を「できる、少しできる、できない」の3段階から、実際に指導することを想定した場合の「指導の難易感」については「やさしい、少し難しい、難しい」の3段階から該当する段階を回答させた。

調査データの統計処理は各項目間及び段階間について回答率を求め $\chi^2$ 検定による有意差の検定などで比較検討した。家庭科に関する指導力をつける手だてを具体的に自由記述させた意見については、記述内容の概要を読み取り類型化し分析した。

## 結果及び考察

### 家庭科の内容に関する調査

家庭科の指導内容に関連する家族の生活、消費生活、食生活、衣生活、住生活、地域、福祉、環境について、各項目の到達感、難易感、指導力の程度、指導の難易感及び認知度などの調査結果は、図1-1と図1-2及び図2に示したとおりであった。各質問項目の回答率を図中に表示した。回答率の程度により回答率50%以上の項目、回答率30~49%の項目、回答率10~29%の項目（段階3：できない、知らない、難しい）について）に識別し分類表示した。

項目	1 自分の生活時間を書く				2 家族の生活時間を書く				3 家事の種類をあげる				4 家事を分担する				5 自分の誕生と成長を記録する				6 団らんの時間を待つ			
	到達感	難易感	指導力の程度	指導の難易感	到達感	難易感	指導力の程度	指導の難易感	到達感	難易感	指導力の程度	指導の難易感	到達感	難易感	指導力の程度	指導の難易感	到達感	難易感	指導力の程度	指導の難易感	到達感	難易感	指導力の程度	指導の難易感
1*	84	85	59	65	43	39	38	35	66	70	63	60	69	51	49	47	45	37	42	33	62	52	42	34
2*	15	12	40	34	45	48	56	56	32	27	32	33	30	44	45	44	48	47	48	49	29	37	49	53
3*	1	2	1	1	12	13	6	9	2	3	4	6	1	4	5	9	6	14	10	17	9	9	8	12

  

項目	7 支出を5種類以上あげる				8 計画的に金銭を使用する				9 自分の支出を記録する				10 目的に合った商品を選ぶ				11 正しい契約をする				12 不要なものの購入を断る				13 生活情報を収集し活用する				14 環境家計簿をつける			
	到達感	難易感	指導力の程度	指導の難易感	到達感	難易感	指導力の程度	指導の難易感	到達感	難易感	指導力の程度	指導の難易感	到達感	難易感	指導力の程度	指導の難易感	到達感	難易感	指導力の程度	指導の難易感	到達感	難易感	指導力の程度	指導の難易感	到達感	難易感	指導力の程度	指導の難易感				
1*	56	43	38	33	49	38	38	29	58	51	52	44	65	61	46	38	47	27	25	14	61	40	33	25	35	23	20	19	5	10	6	10
2*	37	41	47	37	43	45	51	44	32	38	40	48	33	30	48	51	40	45	46	32	37	45	60	54	56	60	70	61	41	35	37	33
3*	8	16	15	30	6	15	11	25	10	11	9	8	2	8	5	12	13	27	29	54	2	14	6	22	9	10	10	19	54	54	57	57

  

項目	15 食事作りの手順をあげる				16 食品表示を見て安全な食品を選ぶ				17 体に必要な栄養素の種類と働きをあげる				18 家族と楽しく食事を食べる				19 お茶をいれる				20 ご飯を炊く				21 みそ汁を作る				22 野菜や肉類を炒める				23 簡単な食事を食べる				24 食費を計算する			
	到達感	難易感	指導力の程度	指導の難易感	到達感	難易感	指導力の程度	指導の難易感	到達感	難易感	指導力の程度	指導の難易感	到達感	難易感	指導力の程度	指導の難易感	到達感	難易感	指導力の程度	指導の難易感	到達感	難易感	指導力の程度	指導の難易感	到達感	難易感	指導力の程度	指導の難易感	到達感	難易感	指導力の程度	指導の難易感								
1*	40	31	34	30	33	26	23	22	14	10	15	14	80	78	61	57	90	89	74	67	66	63	69	69	66	59	49	52	82	75	60	54	74	63	44	42	42	34	27	20
2*	49	61	48	46	53	49	64	45	67	52	53	40	15	14	32	32	8	11	24	30	12	16	28	26	26	34	43	37	18	24	37	41	26	32	48	45	44	48	63	67
3*	11	17	17	24	14	24	24	33	19	39	32	46	5	8	6	11	2	0	2	3	2	1	3	5	9	6	8	12	0	1	3	5	0	4	8	13	14	17	15	23

1\*：できる（やさしい）、2\*：少しできる（少し難しい）、3\*：できない（難しい）の回答率（%）  
：回答率50%以上の項目  
：回答率30~49%の項目  
：3(できない、難しい)での回答率10~29%の項目

n=93

図1-1 家庭科の指導内容の到達感と指導の難易感

項目	25 着用に適した着装をする				26 自分に合う既製服を選ぶ				27 衣服の日常の手入れや整理をする				28 素材別に洗濯用洗剤を選ぶ				29 日常着を洗濯する				30 家庭洗濯とクリーニング利用を区別する				31 アイロンをかける				32 ほころびをなおす				33 ボタンをつける				34 衣服をリサイクルする			
	到達感	難易感	指導力の程度	指導の難易感	到達感	難易感	指導力の程度	指導の難易感	到達感	難易感	指導力の程度	指導の難易感	到達感	難易感	指導力の程度	指導の難易感	到達感	難易感	指導力の程度	指導の難易感	到達感	難易感	指導力の程度	指導の難易感	到達感	難易感	指導力の程度	指導の難易感	到達感	難易感	指導力の程度	指導の難易感								
1'	71	62	44	44	63	48	37	31	35	29	24	25	16	10	13	11	70	68	51	46	40	35	25	23	69	55	39	34	40	28	18	18	54	47	32	27	29	27	24	23
2'	25	34	47	43	33	45	52	47	58	58	60	57	49	47	49	40	26	26	42	40	43	44	47	46	22	32	48	49	42	48	56	48	30	33	47	48	39	43	46	42
3'	4	3	8	13	3	6	12	22	6	12	16	18	34	43	38	49	3	4	6	13	17	20	28	31	10	12	13	16	18	23	26	33	15	17	19	24	32	29	30	35
項目	35 自分の部屋を美化整備する				36 家族が共通に使う場所の美化整備をする				37 部屋の明るさを調整する				38 部屋の換気と冷暖房の調整をする																											
	到達感	難易感	指導力の程度	指導の難易感	到達感	難易感	指導力の程度	指導の難易感	到達感	難易感	指導力の程度	指導の難易感	到達感	難易感	指導力の程度	指導の難易感																								
1'	57	49	57	53	51	46	58	53	57	55	48	48	75	72	69	70																								
2'	30	33	35	39	48	44	40	40	37	38	41	40	24	25	29	27																								
3'	12	16	8	9	1	9	2	8	6	6	11	12	1	2	2	3																								
項目	39 地域の環境を整備する				40 地域の活動に参加する				41 地域の住民としてのルールを守る				42 高齢者への手助けをする				43 幼児への手助けをする				44 外国人への手助けをする				45 ボランティア活動をする				46 生活環境を考えて家庭生活を工夫する				47 地球環境保護とゴミの関係を考える				48 地球環境保護とエネルギーの関係を考える			
	到達感	難易感	指導力の程度	指導の難易感	到達感	難易感	指導力の程度	指導の難易感	到達感	難易感	指導力の程度	指導の難易感	到達感	難易感	指導力の程度	指導の難易感	到達感	難易感	指導力の程度	指導の難易感	到達感	難易感	指導力の程度	指導の難易感	到達感	難易感	指導力の程度	指導の難易感	到達感	難易感	指導力の程度	指導の難易感								
1'	22	25	34	23	44	46	45	41	73	68	59	47	53	38	46	35	54	39	42	30	32	22	23	17	60	55	56	46	32	23	23	13	41	29	27	20	27	20	17	10
2'	70	58	57	59	46	42	49	51	27	29	40	48	45	47	46	43	38	45	49	46	41	37	44	33	35	34	40	47	59	59	66	67	52	53	59	52	59	48	56	46
3'	9	17	9	18	9	12	5	9	0	3	1	4	2	15	8	22	9	16	9	24	26	42	33	49	4	11	2	6	9	18	12	20	8	18	14	27	11	28	26	42

1' : できる (やさしい) , 2' : 少しできる (少し難しい) , 3' : できない (難しい) の回答率 (%) n=93  
 : 回答率50%以上の項目  : 回答率30~49%の項目  : 3(できない, 難しい) での回答率10~29%の項目

図1-2 家庭科の指導内容の到達感と指導の難易感

各質問項目の回答段階“1 (できる・やさしい)”が約50%以上の項目は、家庭生活の「自分の生活時間を書く」「家事の種類をあげる」「家事を分担する」、食生活の「家族と楽しく食事をする」「お茶をいれる」「ご飯を炊く」「みそ汁を作る」「野菜や肉類を炒める」、衣生活の「日常着を洗濯する」、住生活の「自分の部屋を美化整備する」「家族が共通に使う場所の美化整備をする」「部屋の明るさを調整する」「部屋の換気と冷暖房の調整をする」、地域の「地域の住民としてのルールを守る」、福祉の「ボランティア活動をする」であった。学生自身の日常の身近な家庭生活や住生活行為に関する項目及び小・中・高等学校の家庭科の調理実習で学んだ経験のある項目が特に高い回答率で、その生活行為ができてやさしく、指導することもできてやさしいと考えていることが分かった。

回答段階“2 (少しできる・少し難しい)”が約40%以上の項目は、家庭生活の「家族の生活時間を書く」「自分の誕生と成長を記録する」、消費生活の「支出を5種類以上あげる」「計画的に金銭を使用する」「不要なものの購入を断る」「生活情報を収集し活用する」、食生活の「食事作りの手順をあげる」「食品表示を見て安全な食品を選ぶ」「食費を計算する」、衣生活の「衣服の日常の手入れや整理をする」「素材別に洗濯用洗剤を選ぶ」「家庭洗濯とクリーニング利用を区別する」「ほころびをなおす」「衣服をリサイクルする」、住生活の「家族が共通に使う場所の美化整備をする」「部屋の明るさを調整する」、地域の「地域の環境を整備する」「地域の活動に参加する」、福祉の「高齢者への手助けをする」「幼児への手助けをする」「外国人への手助けをする」、環境の「生活環境を考えて家庭生活を工夫する」「地球環境保護とゴミの関係を考える」「地球環境保護

とエネルギーの関係を考える」であった。段階2では行為の記録や計算、物の選択、計画性、整理や活用など思考力を要する生活行動が多く見られた。

一方、回答段階“3（できない・難しい）”で「指導力の程度」の高い回答率の項目順に回答率20%以上を挙げると「環境家計簿をつける」「素材別に洗濯用洗剤を選ぶ」「外国人への手助けをする」「体に必要な栄養素の種類と働きをあげる」「衣服をリサイクルする」「正しい契約をする」「家庭洗濯とクリーニング利用を区別する」「ほころびをなおす」「地球環境保護とエネルギーの関係を考える」「食品表示を見て安全な食品を選ぶ」「ボタンをつける」の11項目であった。

また、「指導の難易感」の回答段階“3できない（難しい）”での高い回答率の項目順に回答率20%以上を挙げると「環境家計簿をつける」「正しい契約をする」「素材別に洗濯用洗剤を選ぶ」「外国人への手助けをする」「体に必要な栄養素の種類と働きをあげる」「地球環境保護とエネルギーの関係を考える」「衣服をリサイクルする」「食品表示を見て安全な食品を選ぶ」「ほころびをなおす」「家庭洗濯とクリーニング利用を区別する」「支出を5種類以上あげる」「地球環境保護とゴミの関係を考える」「計画的に金銭を使用する」「食事作りの手順をあげる」「ボタンをつける」「幼児への手助けをする」「食費を計算する」「不要なものの購入を断る」「自分に合う既製服を選ぶ」「高齢者への手助けをする」「生活環境を考えて家庭生活を工夫する」の20項目であった。「指導力の程度」で回答段階“3できない（難しい）”で高い回答率の項目は、「指導の難易感」でも同様の項目がより高い回答率であり、指導力の程度が低いほど指導することの難しさを感じていた。特に「環境家計簿をつける」は57%、「正しい契約をする」は54%と「指導の難易感」が高い傾向を示した。学生が指導するのに難しいと考える内容のキーワードを列挙すると、環境家計簿、環境保全とエネルギー、環境保全とゴミ、リサイクル、生活環境の工夫などの環境教育に関連する内容、契約、食品表示、支出、購入の判断、計画的な金銭使用などの消費者教育に関連する内容、栄養素の種類と働き、安全な食品選択、食事作り、食費計算などの食生活に関連する内容、洗剤の選択、ほころび直し、ボタン付けなどの衣生活に関連する内容、高齢者や幼児らへの手助けなどであった。回答段階“1・2・3”での回答率のパターンは、“1：高い、2：低い、3：低い”、“1：高い、2：高い、3：低い”、“1：中程度、2：高い、3：中程度”、“1：低い、2：高い、3：中程度”の4パターンに分類できた。各質問項目の回答段階での回答率について $\chi^2$ 検定した結果は、質問項目間よりも回答段階間での有意差が認められた。このような結果から、生活の自立及び消費生活と環境教育の指導の充実が一層望まれる。

質問項目	1 家族の大切さ			2 いろいろな家族構成			3 家庭生活の大切さ			4 家庭の仕事			5 契約の意味			6 消費者の権利と責任			7 税金と家庭生活との関わり			8 既製服の品質表示・取り扱い絵表示の意味			9 既製服のサイズ表示の意味			10 被服材料の種類と特徴			11 住居用洗剤の表示の意味			12 生活資源の節約やリサイクル		
	認知度	指導力の程度	指導の難易感	認知度	指導力の程度	指導の難易感	認知度	指導力の程度	指導の難易感	認知度	指導力の程度	指導の難易感	認知度	指導力の程度	指導の難易感	認知度	指導力の程度	指導の難易感	認知度	指導力の程度	指導の難易感	認知度	指導力の程度	指導の難易感	認知度	指導力の程度	指導の難易感	認知度	指導力の程度	指導の難易感						
	1*	2*	3*	1*	2*	3*	1*	2*	3*	1*	2*	3*	1*	2*	3*	1*	2*	3*	1*	2*	3*	1*	2*	3*	1*	2*	3*	1*	2*	3*						
1*	89	59	39	72	47	35	82	46	32	75	45	34	32	11	6	24	10	5	17	6	3	27	13	14	28	16	18	16	8	9	11	5	5	34	18	19
2*	10	38	45	26	47	46	17	51	52	22	51	54	58	58	39	72	59	41	70	54	39	54	56	43	63	67	52	61	56	42	59	55	40	58	68	53
3*	1	3	15	2	5	17	1	3	15	3	4	11	10	31	54	4	31	53	13	40	57	19	31	42	9	17	29	23	37	48	30	40	54	8	14	27

1\*：認知度（知っている）、指導力の程度（できる）、指導の難易感（やさしい）の回答率（%）  
 2\*：認知度（少し知っている）、指導力の程度（少しできる）、指導の難易感（少し難しい）の回答率（%）  
 3\*：認知度（知らない）、指導力の程度（できない）、指導の難易感（難しい）の回答率（%）  
 ■：回答率50%以上の項目、■：回答率30～49%の項目、□：3（知らない、できない、難しい）での回答率10～29%の項目

図2 家庭科の指導内容の認知度と指導の難易感

家庭生活に関連した「家族の大切さ」「いろいろな家族構成」「家庭生活の大切さ」「家庭の仕事」の回答段階“1（知っている・できる・やさしい）”の回答率は、「指導の難易感」約30%であるが「認知度」と「指導力の程度」は約50%以上の高い回答率でよく理解できていた。「契約の意味」「消費者の権利と責任」「税金と家庭生活との関わり」「既製服の品質表示・取り扱い絵表示の意味」「既製服のサイズ表示の意味」「被服材料の種類と特徴」「住居用洗剤の表示の意味」「生活資源の節約やりサイクル」の項目では、“1（知っている・できる・やさしい）”の回答率は低く、“2（少し知っている・少しできる・少し難しい）”が50%以上の高い回答率であった。“3（知らない・できない・難しい）”段階では「指導力の程度」が約30%で、「指導の難易感」では「既製服のサイズ表示の意味」と「生活資源の節約やりサイクル」が約30%で、この他は約50%の高い回答率を示した。「認知度」は低く「指導の難易感」が高い傾向であったことは、先に述べた48項目の調査結果と同様に、契約、消費者の権利と責任、税金、品質表示、被服材料の種類、洗剤の表示などのキーワードに示される消費生活関連の指導力を向上させることの重要性が示された。

### 指導力をつける方策

学生が指導力をつけるための手だてと考える代表的な自由記述の意見をそのまま挙げると次のようであった。「子どもに家庭科を指導するとき、自らが体験して感じたことや思ったことを踏まえて子どもに指導した方が子どもに分かりやすく理解しやすくなると思う。だから、教師自身が食事作り、小物作りの経験をしたり、自分の家族について話したりして、実体験に基づく指導をするようにする」「普段の生活の中で、家庭科で取り扱うことを意識しながら行動する。例えば、調理の際に材料の切り方の名前を思い出しながら切ったり、どの材料がどの栄養素に入り、自分に何が不足しているのかを考えたりする。また、洗濯をする時には洗剤のことや衣類の素材のことを考えながらその性質などを理解していく」「自分の家庭や住んでいる環境などについて知る。裁縫や料理の訓練をする」「日頃から家庭科に関する知識を増やし、エネルギーや環境、消費など社会的な問題に目を向け、その時代の家庭科のニーズに合った授業を実践していく。子どもの実態を知り、子どもにうまく伝えるための授業展開、内容を工夫する」「まずは自分が家庭や家族とのふれ合い、団らんの大切さを知る。感じる事が一番だと思います」「まずは子どもの実態を知ることが重要である。その実態から、子どものつまずきを発見し、そのことを教材として模擬授業をやっていくことで実践の力を少しずつ蓄えていく。そのために、まず家庭科の専門的な知識をしっかりと学んでおくことが重要だと思います」「実際の生活における課題を自分で調べ理解しておく必要があると思います。子どもや地域の実態が分かっていると指導が単なる机上の空論に終わってしまうと思う」「指導力をつけるためには、模擬授業や教育実習が一番役に立つと思う」「指導法や目標などを学んでいく過程で確固とした自分なりの教育観を持つことが大切だと思います。その上で、なるべく多く模擬授業を行い、経験を積むことで指導力をつけることができるのではないのでしょうか」以上のように回答した82件の意見を整理すると次のような8項目の概要に大きく分類できた。① 家庭科の授業に必要な知識や技術を身につけること。② 子どもの置かれている状況や実態を知り子どもの目線で考えること。③ 模擬授業を経験すること。④ 授業実践例を調べて指導する技術力を向上させること。⑤ 家庭生活への興味・関心を自分自身が持つこと。⑥ 子どもが生活している地域の実態を知ること。⑦ 生活情報について自分自身の生活体験から深めること。⑧ 調理、裁縫、洗濯の方法や団らんを自分自身が体験すること。このように指導する立場を強く認識している意見が多くあげられ、家庭科教育の質の向上心を抱い

た期待できる頼もしい教師像が散見された。

### 学習指導要領の内容構成

小学校の新しい学習指導要領<sup>5,6,7</sup>が文部科学省から平成20年3月に公示され平成23年度から完全実施される。平成21, 22年度の小学校家庭科は、移行措置としてその全部又は一部について新学習指導要領によることもできる。現行学習指導要領の各学年の内容8項目は、次の(1)～(8)である。(1)家庭生活に関心をもって、家庭の仕事や家族との触れ合いができるようにする。(2)衣服に関心をもって、日常着を着たり手入れしたりすることができるようにする。(3)生活に役立つ物を製作して活用できるようにする。(4)日常の食事に関心をもって、調和のよい食事のとり方が分かるようにする。(5)日常よく使用される食品を用いて簡単な調理ができるようにする。(6)住まい方に関心をもって、身の回りを快適に整えることができるようにする。(7)身の回りの物や金銭の計画的な使い方を考え、適切に買物ができるようにする。(8)近隣の人々との生活を考え、自分の家庭生活について環境に配慮した工夫ができるようにする。新しい学習指導要領は、中学校技術・家庭(家庭分野)の内容「A家族・家庭と子どもの成長、B食生活と自立、C衣生活・住生活と自立、D身近な消費生活と環境」と系統性や連続性を考慮した体系化を図り、生涯の家庭生活の基盤となる能力と実践的な態度を育成する視点から「A家庭生活と家族、B日常の食事と調理の基礎、C快適な衣服と住まい、D身近な消費生活と環境」の4項目に再構成された。その構成を現行と新しい学習指導要領とを比較対照して示すと、(1)と(8)はAに、(4)と(5)はBに、(2)(3)(6)はCに、(7)と(8)はDに内容構成<sup>5,6,7</sup>が改善された。AからDの内容の関連を示すことで、持続可能な社会の構築、社会において主体的に生きる消費者を育成するための教育の充実、食育の推進など社会の変化へ対応し家庭生活を総合的にとらえることができ、効果的な学習が展開できるとしている。これからの家庭科教育では、新しい学習指導要領に示された目標及び内容を反映させ、生活への実践力を高める学生の指導力の育成が課題である。

## ま と め

小学校家庭科を指導する上で、学生自身はどんな指導力をつけることを求めているのか、学生にどのような指導力をつけさせることが望ましいのか、本調査研究をとおして検討した。

その結果、子どもの多様な生活体験の実態をみつめ、日常生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技能<sup>8,9,10</sup>を自立した生活に役立つような形で身に付けさせ、生活をよりよくしようとする実践的な態度及び情緒豊かな心情を育成できるような家庭科教育を推進していくことの必要性が示されたと考える。

## 謝 辞

本研究の調査にご協力いただきました学生の皆様に感謝いたします。

## 引用及び参考文献

1. 文部科学省 (2004), 小学校学習指導要領解説 家庭編 平成11年5月 平成16年5月 一部補訂, 開隆堂
2. 櫻井純子ほか (2007), わたしたちの家庭科 小学校5・6, 開隆堂
3. 渋川祥子ほか (2007) 新しい家庭 5・6, 東京書籍
4. 水野香代子・橋本都編 (2002), 小学校家庭科 基礎・基本と学習指導の実際—計画・実践・評価のポイント—, 東洋館
5. 文部科学省HP, 新しい学習指導要領, 家庭  
[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/new-cs/youryou/syo/katei.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/syo/katei.htm)
6. 文部科学省HP 新しい学習指導要領, 技術・家庭  
[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/new-cs/youryou/chu/gika.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/chu/gika.htm)
7. 開隆堂HP, 平成20年3月28日告示小学校新しい学習指導要領の内容とポイント 小学校家庭科, 新旧学習指導要領比較対照表
8. 沼田貴美子・嶋田早苗 (2004), 小・中・高等学校の発達段階における調理技能の指導 (第1報)  
—高校生の調理技能及び食生活の実態—, 熊本大学教育学部紀要, 第53号, 自然科学, pp. 141-146
9. 沼田貴美子・嶋田早苗 (2005), 小・中・高等学校の発達段階における調理技能の指導 (第2報)  
—動画を活用した授業の展開—, 熊本大学教育実践研究, 第22号, pp. 43-46
10. 沼田貴美子・渡邊美奈 (2009), 調理学と調理操作を関連させた卵の調理の教材作成, 熊本大学教育実践研究, 第26号, pp. 51-59